

平成 29 年度 HIV 感染者・エイズ患者療養支援検討会



2018年1月11日（木）
上越地域振興局健康福祉環境部 第1会議室にて

平成 29 年度 HIV 感染者・

エイズ患者療養支援検討会

HIV 感染者・エイズ患者が安心して暮らせる地域づくりを目指し、検討会を行っています。地域の課題として、HIV 感染症についての正しい知識や理解の不足が挙げられています。また、施設での受入に限られている現状があるため、施設での受入拡大に向け、関係機関の代表者が集まり、意見交換を行いました。

【参集者】県立中央病院（エイズ治療拠点病院）、上越医師会、上越歯科医師会、上越薬剤師会、新潟県老人福祉施設協議会第5ブロック長、ケアマネジャー協議会長、上越基幹相談支援センター、障害者支援施設代表、訪問看護ステーション代表、上越市福祉課・高齢者支援課、妙高市福祉介護課、県庁健康対策課（大雪のため欠席）

【内容】

- 1 情報提供
(1)全国、新潟県内の HIV 感染者・エイズ患者の療養支援に関する現状について
HIV 感染症は、抗 HIV 薬の進歩により、死に至る病、進行性の病から、コントロール可能な慢性疾患になった。そのため、療養の長期化により、在宅療養支援が全国的な課題である。
(2)HIV 感染者のケアについて
HIV の正しい知識を身につけること、標準予防策の日常的な実施、医療・介護等関係機関と連携したかわりが重要である。
- 2 報告
・個別事例について
・受入にあたっての施設の取組と受入状況について
- 3 協議
「HIV 感染者・エイズ患者の受入に向けて」
(検討結果)
◎HIV の正しい知識や理解を得ること
・HIV に限らず感染症全般についての理解、標準予防策について繰り返し伝えること
・いつでも HIV 感染者を受け入れられるように研修会を開催し、今後に備えること。
→地域の感染対策の向上を図る。
・HIV に関する情報提供（HIV/AIDS 統計、疾患のこと等）
◎関係者間の連携、サポート体制の促進

次年度も研修会や検討会の機会をもちたいと思います。



HIV に関する情報
をまとめました。

HIVに関する情報 PART 1

かつては死に至る病と恐れられたエイズですが、現在は原因となるヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染しても、**1日1回1錠**の薬で通常の生活を送れるようになりました。

また、2017年現在の日本におけるHIV感染者に対する治療の状況は、診断が確定しても薬剤投与が開始となれば、**ほぼ100%近くウイルスを測定感度以下に抑制**させることができ、発症前であればAIDSまで進むことはほぼないと言われています。

1 発生動向

厚生労働省エイズ動向委員会は、都道府県からの情報に基づき日本国内の患者発生動向を把握し、公表しています。

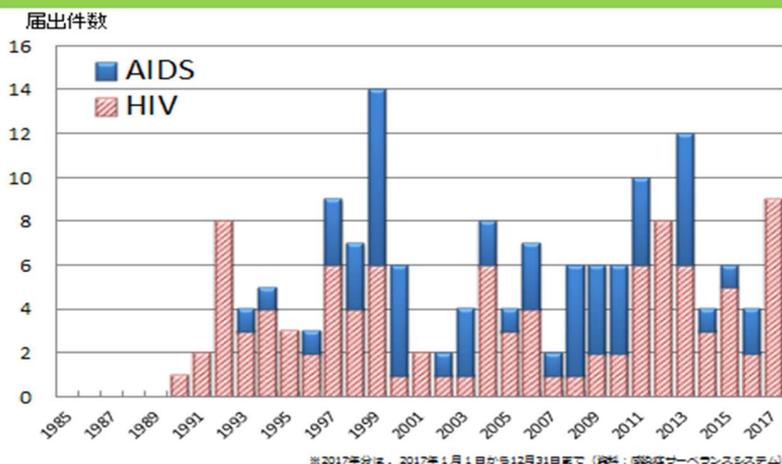
【全国の状況（2016年）】

○新規報告件数 1,448件	○累積報告数 計 27,443件
・ HIV感染者数 1,011件	（凝固因子製剤による感染例を除く）
・ AIDS患者数 437件	・ HIV感染者 18,920件
	・ AIDS患者 8,523件

* 1日4件の届出があります。

【新潟県の状況】

HIV感染者・エイズ患者報告数 年次推移【新潟県】



新潟県では近年、HIV感染者の届出が多い状況です。

2 医療体制

HIV感染者・AIDS患者が日本のどの地域においても適切な医療が受けられることを目的に、各都道府県にエイズ治療の拠点病院が設置されています。

- ・ブロック拠点病院：新潟大学医歯学総合病院、新潟市民病院、新潟県立新発田病院
- ・拠点病院：西新潟中央病院、長岡赤十字病院、新潟県立中央病院

*（公財）エイズ予防財団が運営する「API-Net エイズ予防情報ネット」でエイズに関する詳しい情報があります。